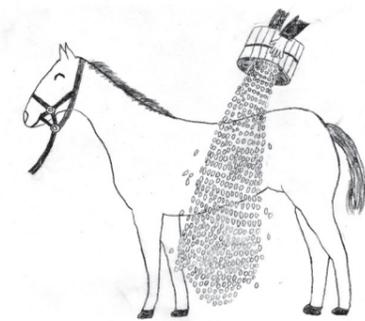


はにわ通信

No.277 平成30(2018)年4月号



【松阪と北畠氏(前編) ~ 知っていますか? 「白米城」の名前の由来 ~】

鎌倉時代	1333年 鎌倉幕府滅亡
建武の新政	1336年 北畠親房伊勢に入り、田丸に拠点を築く
南北朝時代	1338年 室町幕府開始(足利尊氏征夷大将軍に任命される) 神山城の戦い
	1342年 田丸城陥落、本拠地を一志郡多気に移す
室町時代	1354年 親房死去
	1392年 南北朝の合体
	1414年 北畠満雅挙兵
	1415年 ★阿坂城の戦い 戦いの後、幕府と和睦
1428年 満雅、再度挙兵 同年12月、岩田川の戦いで討ち死に	
1430年 北畠顕雅、幕府に許され、旧領地の統治を認められる	



阿坂城跡(小阿坂町より撮影)

皆さん、「阿坂城跡」(国史跡・松阪市大阿坂町)をご存じですか。阿坂城跡は、杣形山の山頂につくられた山城の城跡で、松阪では「白米城」という名称でよく知られています。ところで、「阿坂城跡」

は、どうして「白米城」と呼ばれているのでしょうか? その由来は、室町時代から戦国時代にかけて松阪地域を治めていた北畠氏と室町幕府(1)の戦いの中で起きた、ある出来事にあります。今回は、北畠氏が松阪地域を治めるようになった経緯と白米城の名称の由来について紹介します。

室町時代から戦国時代にかけて、松阪地域を含む南伊勢(2)を治めたのは、北畠氏です。北畠氏は、もともと京都の中流貴族でしたが、鎌倉時代末期に北畠親房という人物が出て、南北朝の動乱(3)の時代、親房は南朝側に付いて北朝側の室町幕府と戦いました。戦いの過程で南伊勢の重要性に目をつけた親房は、そこにやって来て、田丸城(玉城町)や神山城(松阪市中万町)、一之瀬城(度会町)などを築き、南伊勢を確保しました。それ以来、親房の子孫が代々南伊勢を治めるようになり、この地域をめぐって室町幕府と激しく戦うこととなります。

北畠氏関係年表(室町時代前半まで)
こうした情勢の中、親房の曾孫・北畠満雅の時代に、阿坂城をめぐる戦いが起こりました。そして、この戦いの中で起きたある出来事が、「白米城」という名称の由来となっているのです。少し長くなりますが、その出来事について書いた『桜雲記』(4)という書物の一節を紹介しします。

く北畠満雅は阿坂城に籠城(5)し、室町幕府軍はそこに攻撃を仕掛けたが、なかなか攻め落とせなかった。そこで…>

京師の軍将等計策して 阿坂の城の水を察して是を塞ぎて兵士をして守らしむ。因 茲 城兵既に勞せん
と欲す。時に満雅知計して城内の高き所にて馬を白米を以て是を洗ふ。敵 遙に見て水飽まで有ると知て、
水の手の守りを解く。故 水の難遁れ、城を固く守る。是より此城を白米の城と云り。

意識：室町幕府軍の武将たちは、山頂にある阿坂城の弱点は水が得にくいことだと察知し、水場を兵士に占拠させて守らせた。そのため、阿坂城に籠城する満雅の兵士たちは苦境に立たされた。その時、満雅は知略をめぐらせ、城の高い所に馬を連れてきて、その馬を白米で洗うふりをした。幕府軍はその様子を遠くから見て、阿坂城に水がたくさんあると勘違いし、水場の守りを解いてしまった。その結果、水不足が解消され、阿坂城を固く守ることができた。このことから、阿坂城を白米の城というのだ。

(1) 征夷大将軍に任命された足利尊氏が開いた幕府。 (2) 一志郡・飯高郡・飯野郡・多気郡・度会郡を合わせた地域。
(3) 建武の新政崩壊後、朝廷が吉野の南朝(後醍醐天皇・北畠親房など)と京都の北朝(光明天皇・足利尊氏など)に分かれ、皇位継承をめぐって全国で争いが続いたこと。 (4) 南北朝の動乱を南朝側から書いた書物で、江戸時代前期の成立。 (5) 城の中に立てこもること。

いかがでしょうか? もうおわかりですね。阿坂城に籠城した満雅が、白米を水の代わりに使って、馬を洗うふりをして見せるとい知略を駆使し、窮地を脱した出来事が「白米城」という名称の由来となっているのです(6)。

阿坂城の戦いでは窮地を脱した満雅ですが、その後、岩田川(津市)の戦いで幕府軍に討ち負かされ、戦死してしまいました。本来だと、負けた側の北畠氏は幕府に領地を取り上げられてしまうはずですが。しかし、満雅の弟・北畠顕雅が、伊勢神宮の参拝にやって来た将軍・足利義教(7)をもてなしたり、将軍の側近に貢物をしたりするなど、必死に奔走した結果、なんと、北畠氏は幕府からもとの領地の統治を認められることになりました。そして、顕雅以降、約130年間、北畠氏は室町幕府の一員として南伊勢を治めることになるのです。(後編へ続く 担当)

(6) ただし、このような白米城伝説は全国にあります。また、『桜雲記』の成立は「阿坂城の戦い」の約200年後の江戸時代前期であり、室町時代の史料『満濟准后日記』には「幕府軍はあまり負傷者を出すことなく阿坂城を攻め落とすことができた」という記述が残っています。そのため、戦いの実情は後者の方が、より史実に近いと考えられます。(7) 室町幕府の6代将軍。
※この記事を書く際、『史料が語る 中世城館と北畠氏の動向』(下村登良男、2004年、十楽)を参考にしました。また、現在、阿坂城跡は、そこからの眺めが素晴らしいことから、四季を通じて多くの人が訪れる人気のハイキングコースの目的地になっています。
※過去のはにわ通信は当センターHPでご覧いただけます(https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/list264.html)。

【学習支援展示「大昔の暮らし～きみものぞいてみよう!～」を開催します】

松阪市文化財センターは、4月14日(土)から6月3日(日)まで、「はにわ館」第2展示室にて平成30年度学習支援展示「大昔の暮らし～きみものぞいてみよう!～」を開催します。小学生や中学生の皆さんが、社会の授業で縄文・弥生・古墳時代を学習する時期に合わせ、市内の遺跡から出土した本物の資料(縄文土器・弥生土器・埴輪・勾玉など)や発掘調査の成果をもとに製作したジオラマなどを展示します。また、赤彩の弥生土器や三重県指定文化財の常光坊谷4号墳出土の埴輪、八重田古墳群出土の甲冑など、大人の方にも楽しんでいただける資料も展示します。ぜひ、この機会にお越しください!(担当)



文化財センター はにわ館 & ギャラリーの催し物予定

4月の休館日は2日(月)、9日(月)、16日(月)、23日(月)、
5月の休館日は7日(月)、14日(月)、21日(月)、28日(月)、です。
開館時間は9:00~17:00です。

【はにわ館】 入館料 100円(18歳以下無料) *入館は16:30まで

第1展示室 ■常設展「宝塚古墳の謎」
第2展示室 ■学習支援展示「大昔の暮らし～きみものぞいてみよう!～」 4/14(土)~6/3(日)
★4/14(土)は、三重県の県民の日(4月18日)を記念して「入館無料」!

【ギャラリー】 入場無料

第1・2・3G ■第15回記念 合同水墨画展 4/8(日)~4/15(日) 9:00~17:00 ※最終日は15:00まで
第2G ■水彩画展「すがし流るる桜月」 4/17(火)~4/22(日) 9:00~16:30 ※初日は13:00から、最終日は16:00まで
第1G ■小さな絵展 4/18(水)~4/22(日) 9:00~17:00 ※最終日は16:00まで
第1G ■アトリエらびす絵画教室展 4/25(水)~4/29(日) 9:30~17:00 ※最終日は16:00まで
第2G ■第2回 MN06 作品展 魅惑の鳥たち 4/25(水)~4/29(日) 10:00~17:00 ※最終日は16:00まで
第3G ■第7回 ギター製作家「中出阪蔵」展 4/29(日)~4/30(月) 9:00~17:00 ※初日は正午から、最終日は16:00まで

【ワークショップ】

はにわ館ロビー★「ミサンガをつくらう」 4/14(土) 10:00~15:30(受付は15:00まで)
※予約不要、材料費(1セット)100円
第3G ★「勾玉ネックレス・はにわストラップづくり」 5/3(木)~5/5(土) 10:00~15:00(受付は14:30まで)
※予約不要、材料費(1セット)100円